

第32回カツオ県民会議幹事会 議事要録

日時：令和2年8月27日（木）17：00～19：00

場所：司本店

出席者：山崎 道生、受田 浩之、竹内 太一、西山 勝、木村 祐二、竹内 孝久（代理出席
福島 徹）、千頭 邦夫、中田 勝淑、久松 朋水、黒笹 慈幾、西村 純子、川淵 孝、小笠
原 慶二、後藤 昌弘（Web）、木村 雅俊、吉用 武史、八田 大輔、岡本 吉行、市川 幸

開催にあたり山崎会長より挨拶があった。

○受田会長代理より第31回幹事会議事要録（案）の確認が行われ確定された。

○受田会長代理より、濱田知事の顧問就任が決定されたことが報告された。

○受田会長代理よりFBで、幹事会でどのような議論がされているか等、情報発信していき
たい旨の要請があり、承認を得た。

○事務局体制について

- ・新事務局の連絡先（住所、TEL、メールアドレス等）の報告があり確認された。
- ・事務局長は、引き続き岡内事務局長にお願いすることが決定された。

○新規入会申込について

- ・2件の新規会員申込について、2件が承認された。

○カツオマイスターの新規認定

- ・食文化分科会より、新規2件の推薦があり、2件認定することが承認された。

○県民会議活動計画及び分科会活動計画について

・コロナ禍において、対面でのシンポジウム開催は厳しい状況が懸念されることから、オン
ラインでのシンポジウムを開催することが決定した。

オンラインシンポジウムの企画も含めて、以下のさまざまな活発な意見が出た。

- 1) まずは参加者を委員に限定して開催し、スムーズに運営できるようになれば委員
以外に広げていくのはどうか。2ヵ月に1回ぐらいの頻度ではどうか。
- 2) 県民会議の活動は県民への周知、認知が十分に進んでいない。企画の目的を明確に
する必要がある。
- 3) カツオを食べながら開催する等、楽しい工夫をし、メディアへ取り上げて頂くこと
で、情報が広がっていくのでは。

- 4) 今年はカツオの漁獲量がさらに減少している。県民会議の活動を始めた時より状況は悪化している。しかしその現状を県民はだれも知らない。この現状を打開しなければならない。
- 5) カツオだけでは、状況を変えていくことは厳しい。カツオを通じて高知を元気にしていきたい。県民会議の方向を見直す時期ではないか。
- 6) 環境問題を見捨てることはできない。
- 7) カツオは今年、壊滅的な状況である。この深刻な現状を情緒に訴えていくべきではないか。
- 8) カツオジャーナル等、機関紙で定期的に発信していくことは有効だと思われる。
- 9) コロナの感染状況を国民は関心を持ってきている。同様の関心をカツオの水揚げにも持ってもらえるような工夫ができないか。表現方法がポイント。
- 10) 県民会議のそもそもの目的を明確にしなければならない。おじさんが騒いでいるだけでは？それでも十分な発信力はあるけれども。
- 11) 総力を挙げて取り組む必要がある。分科会の緩やかな連携が求められる。
- 12) マイスターの力を結集することは話題性もあり、メディアへの訴求力もある。食文化分科会と情報発信分科会の連携、さらには消費・漁業分科会の連携が求められる。

以上の議論を踏まえて、以下のことが会長代理から提案された。

「現行の4分科会から、1)食、2)資源、3)発信の3つのキーワードで再構築してはどうか。「食」の代表を木村幹事、「資源」を中田幹事、発信を黒笹幹事でお願いし、次回の幹事会までに具体的な計画を検討頂く。県民会議事務局もその支援をする。」

さらに、会長から

- 1) オンラインシンポジウムの実施を検討すること
- 2) カツオの水揚げ等のデータを収集し、HP等で発信していくこと
について提案があり、了承された。

これらについて次回の幹事会までに具体的なプランを提案することにした。

○次回の幹事会日程について

・10月23日(金) 11:00~13:00(場所:司本店)で決定した。

(懇親会の席上、顧問の知事に出席要要請をする提案を頂いた。)